

## 議 事 録

1. 会議の名称 池田市発達支援システム検討委員会
2. 開催日時 平成31年3月15日(金) 午前10時～12時
3. 開催場所 池田市役所6階第4会議室
4. 出席者  
《委員》 片山委員長、糸賀副委員長、竹内委員、  
新井委員、坂本委員、藤原委員、高光委員、北村委員  
※永井委員、村田委員、乾委員は欠席。  
  
＜大阪大学＞ 村田特任助教  
＜事務局職員＞ 岡田子ども・健康部部長  
(発達支援課) 佐渡課長、森田副主幹
5. 議 題  
(1) 平成30年度の取り組みについて  
(2) 平成31年度の取り組みについて  
(3) 各委員からの案件について(意見交換)  
(4) その他
6. 議事経過 別紙
7. 公開・非公開の別 公開  
※非公開の理由
8. 傍聴者数 なし
9. 問い合わせ先 池田市 子ども・健康部 発達支援課  
(072) 752-1111 内線190  
(072) 754-6102 (ダイヤルイン)  
E-mail h-shien@city.ikeda.osaka.jp

様式第2号

議事経過

| 発言者  | 発言の要旨   |
|------|---|
| 事務局  | ○開会<br>(部長挨拶、委員構成、出席状況など報告)   |
| 委員長  | ○委員長挨拶<br>昨年、年度内に2回の開催をお願いしたいと意見させてもらったが、皆さま多忙につき、実現できなかった。今日この場で、次年度以降どのような形がよいかについて、委員の皆さまのコメント、希望をぜひお話しいただき、活発な議論をお願いしたいと思います。   |
| 事務局  | 案件(1) 30年度の取り組みについて<br>案件(2) 31年度の取り組みについて<br>(資料に基づき、30年度における各種事業に関する実績や進捗状況、31年度に予定している事業などについて説明。)   |
| 委員   | 就学前の肢体不自由児が通う児童発達支援は、だいたい市外でしょうか。訓練等、市内でいけるところはあるのか、やまばと学園の受け入れは可能でしょうか。また、対象人数はやはり少ないのでしょうか。   |
| 事務局  | 本市には、医療型児童発達支援センターがない。やまばと学園は福祉型児童発達支援センターになるが、ニーズに合わせて、対応できる範囲でお願いしているところです。対象の子どもは比較的少ないです。   |
| 副委員長 | lkeda_s、e-lkeda_sの数字が伸びているのは、すごく伸びたというのか、もっと伸びると思っていたか、どういう評価をされているか。   |
| 事務局  | 年々定着はしているが、実際活用されているかは課題である。幼児保育課、教育センター、やまばと学園、くすのき学園、発達支援課など、行政の窓口でも活用されているが、全年齢、障がいの有無にかかわらず使っていただくということでは、まだ数は足りない。もっと浸透、活用されるために、今後4か月児健診での配布が開始され、影響が見えてくると楽しみにしています。 |
| 副委員長 | 私自身はlkeda_sを使っていないので誤解があったら許していただ   |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>きたい。他市では、障がいに関心を当てたものもある。親の会の立場として、うちの子は遅々たるあゆみだが伸びているということで、親が書いてホッとする内容の、発達支援の場で底上げをして、すくっていけるような内容の検討という部分はどうかと。その子らしさを支える行政側サイドの知恵がないと、と思います。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>そもそも発達障がい施策が発端で作成されたが、全市民が対象で、障がいがある人も使えるシートであり、府下でもないものと思われる。皆さまに手に取っていただき、必要なシートかどうかは保護者、本人の判断かもしれない。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>補足で、lkeda_s を使うとその子なりの歩みがきれいに見えるように作られている、副委員長のおっしゃったことができるようなシートになっている。ただ、ぱっと見ると膨大で、細かくご存じない方にはプレッシャーや手間を感じることもある。分かれば分かるほどいいもの。障がい者施策は、その人たちだけではなく、周りを巻き込んだ包括的なものでなくてはならない、それに則ったものとして、lkeda_s は先進事例として高く評価されている。最近、府の発達障がい施策を切り口に、どのような形がサポートファイルとして適切か、市町村を集めて聴き取りがあった。その辺の説明をお願いしたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>大阪府発達障がい児者支援体制整備検討部会で、ライフステージを通じた引継ぎの在り方を検討しており、先進事例 4 市の一つとして、池田市から取り組み内容を発表。また、4 市で意見交換会があり、その内容を踏まえ、府が発信していくことになっています。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>多くの自治体では、サポートファイルとして障がい者のみに特化したものであること、一貫したものでなく支援者同士の中身があいまいなものなるということがあり、lkeda_s が最も先進事例と高い評価を受けている。ただ、運用としてうまく活用できていないもどかしさがある。この部分について、どうすれば使ってもらえるようになるか、意見をいただきたい。lkeda_s の強みは全市民型であり、何かつまずきがあったとき、たまっている情報から、今までの生育歴やつまずきを振り返ることができる。客観性のある項目で、同じ基準で支援者が共有できる、よい効果が期待できる。</p>          |

様式第 2 号

|             |   |
|-------------|---|
| <p>委員</p>   | <p>やまばと学園は利用者全員に使っていただいています。2年ほど前に比べ、lkeda_s の認知度は上がっている。記入はまだという方もいるが、入園前から記入を始めてもらい、個別支援計画を立てるときにまた書いて、親が子どもをどう捉えているかもすごく分かりやすい。職員も記入している。3年、4年となるとすごい量になる。年に2回見直しているの、色を変えながらで、成長記録になる。卒園される際、幼児保育課や教育センターにつなぎ、連携をさせてもらっている。</p> |
| <p>委員</p>   | <p>健康増進課で配布もしている。言いづらいのだが、第一印象として、量が多い。抵抗感を示されている方もいる。4か月児健診で配布することで、どういう意見が出るのかと思っている。低年齢で渡すにあたって、どこかでまた続きを渡すような形にできないかと思っています。</p>  |
| <p>委員長</p>  | <p>もともと全部を書き込む必要がないという周知をお願いしている。そこをぜひ伝えていただきたい。多いと感じるハードルをそこで下げていく。書き方の講座をやっていけばそこも減っていく。4か月児健診で、何かが起こる前に書く習慣をつけていく。4か月くらいであれば、子どものことを追っかけていくニーズに応えることができる。</p>  |
| <p>委員</p>   | <p>池田保健所では、小児慢性特定疾患をお持ちの方や肢体不自由、医療的ケアが必要な方がメイン。活用している方の声は上がってこない。母子手帳も使いにくい。独自に記録を残しておられる。まだ難しい部分もあるのかなと思っています。</p>   |
| <p>事務局</p>  | <p>シートは30枚あり、あてはまらないところはあるかもしれないが、あてはまることを記入し残していただけたら。</p>   |
| <p>委員</p>   | <p>市の事業に乗っかっていけるものであれば、大変な介護をする中、我々も勧められるが、保育所にも入れない、やまばと学園にも医ケアがあると受け入れてもらえない現状の中、書く意味合いが母の中でも見えないと思います。</p>   |
| <p>事務局</p>  | <p>重心の事業所はあり、そこに通われる方もいらっしゃるの、事業所にも広げていこうとしている段階です。</p>   |
| <p>副委員長</p> | <p>親の会の立場としては、書いて、安心が欲しい。事実だけをさらっ</p>   |

|            |  |
|------------|--|
| <p>委員長</p> | <p>と書いていけばいいというのも分かるのだが、遅れていても、書くことで安心、喜び、ホッと感がある。寄り添うような版があるとよいというのはそういう思いからきています。</p> <p>書き込むことで親としては安心できる。誰でも得意なこと・苦手なことはある、凸凹を客観的に押さえる、その成長の記録を見ることで安心感が出てくる。そして、誰かに伝えることで、同じ基準で見てくださる安心感があります。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>ハローワークで実物を見たことはない。ペーパー版と電子版について、どちらに重きを置くつもりなのでしょうか。電子版だと他の方が見られないので、相談先ではどうすればよいのでしょうか。コメントが返ってくるというのは、発達支援課の職員が入力されているのでしょうか。コメントが増えてきたときにどのような対応をされるのか。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p>電子版 e-lkeda_s はソフトバンクが社会貢献活動として協力してもらい、大阪大学・ソフトバンク・池田市、官学民連携のもと作成。紙ありきで、電子版も並行して伸びていけばよい。紙は全体が見られる。それを分かった上で、入力は e-lkeda_s ということもあるだろう。lkeda_s があり、付随、補完するものとして電子版 e-lkeda_s がある。窓口では、e-lkeda_s を印刷してもらった分を活用していただく。ガイドコメントは、大阪大学の委託契約の中で作成してもらったもの。</p>  |
| <p>委員長</p> | <p>現在の様子でチョイスしてもらったことに対し、年齢に対してどういう状態か、こういうことをすればよいというコメントが、膨大なオーサライズされた文献をかみくだいて返ってくる。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>教育センターの前、中学校で勤務していたときは、保護者が lkeda_s を持ってこられることはなかったのですが、今後、増えると思われる。ぎっしり埋めてこられる意欲のある方は、極端な話、lkeda_s がなくても説明能力のある方。ただ、子どもの見守りができていない方が教育現場では課題が多いので、そういう方にも、lkeda_s は全体を書く必要がないと、小中学校でも積極的に伝えていかねばならない。支援学校の先生や専門の先生がアドバイスに来てくださる機会が増えているので、参考になる。周知していくこと、先生方の中で、lkeda_s の意義を連携して伝えていきたいと思いました。</p> |

様式第 2 号

|            |   |
|------------|---|
| <p>委員長</p> | <p>3年前に学校に説明にまわらせてもらい、参加くださった先生は使っていると聞きます。地道に同様の取り組みを、様々な場面で使っていただくことで、裾野が広がり、使用人数が増えればと思います。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>記録に残すことは本当に大切なこと。父母の会でも、年をとっていくと、子どもの行く末が気になる。子どものこと、ということが好きで嫌いだと人にきちんと伝える上でこれはとても大切なことですが、書けるところからしか書けていない。今後、別に「親心の記録」を残していくのと並行して考えていきたい。</p>  |
| <p>委員長</p> | <p>勉強会や書き方教室も市に協力してやってもらえるとよい。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>そういう機会がないとなかなか一人では取り組みにくい。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>lkeda_s を書くと、親の気持ちの優先順位、課題をもらさずに拾うことができる。伸びたところも見えるので、親の喜びにもなります。委員の皆さまにおかれましては、lkeda_s 知っていますか、というきっかけだけでもお願いしたい。市として今後どういうことを進めるといったプランがあれば。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>昨年12月、民間の事業所連絡会を開催し、横のつながりもできた。事業所で率先して活用を進めていきたい。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>放課後等デイサービス（放デイ）の利用者数が増加し、大きなお金が動いている。事業所の質については、相当開きがあるとうかがっています。質の担保は事業所として利益が上がりにくい。国は制限をかける方向で動いていて、質の悪い所が、設備やマンパワーを投入せずやれてしまう。市として何ができるかは難しいかもしれないが、市内17か所がどういう内容をされているのかの把握はされているのでしょうか。それと、質の担保のためにどういうことができるのでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>質の担保として、事業所連絡会を続けることが必要で、事業所間の横の連携もしていただきたいと考えています。</p>  |
| <p>委員長</p> | <p>受給者証の発行は何かの基準でやっているのでしょうか。</p>   |

|      |   |
|------|---|
| 事務局  | <p>昨年、内規として、ガイドラインを作成し、それをもとに運用しております。原則、支給量15日としていても、個別でのヒアリングや状況によって、たとえば20日出して減らしていくような考え方です。</p>  |
| 委員長  | <p>それが機能してここまで大きな数字になるのか。言ったもの勝ちとっていないか。日中一時支援、ファミサボでいけるものを強引に放デイでいっているところがあると聞いている。税金を使っていることなので、いくらでも増えていく。私に関わる他市の事業所で、非常に多いのは、母親が自分の時間を確保するため、学童と同じ感覚で利用しようとする。お子さんのためというより、自分のために預かってもらうものとして使われているケースが相当量あると感じている。池田市も同様のことが起きているのではないかと。子どものための方策なのに、子どものためになっていないこと、親子の時間を減らす悪い方向に動いてしまう仕組みになっていないかと危惧している。私の関わっているところは1セッション45分。「たった45分?!」という声もある。預けてどこかへ行く親がいる。家庭でやってほしいことを親も勉強していただいて、だんだん放デイに行く必要がなくなる目的でやっているはずなので、逆をいっている。ある程度、市が制限をかけていかないと、子どもたちのためにならないだろう。明確な基準あるいは強いリーダーシップをとっていただきたい。</p> |
| 副委員長 | <p>まったくその通り。見えないところで、後ろ指をさされるような税金の使い方をしていけば、加害者のようなことになる。親一人ずつが賢くならないといけない。事業所が何を理念にやろうとしているのか、特徴として、利用計画をきちんとして、関わるべき。家庭がしないといけないといけないことがたくさんある。障がい福祉課も発達支援課もがんばってほしい、びしびし指導してほしいと願っている。</p>  |
| 事務局  | <p>悩ましい問題と認識している。池田市だけの問題ではないこと、認可権限は府にあり、その中で審査、監査もしている。保護者から事業所にある意見を、発達支援課から事業所に投げかけていく。連絡会は、研修という意味合いをもたせながら、質の確保に努めてまいります。</p>   |
| 委員長  | <p>認可権限は手出しできないが、市として窓口のところで、なるべく正しく使っていただくところを課内で検討していただき、出すべき人に出せるようにできることがまだまだあると思います。</p>   |

|            |   |
|------------|---|
| <p>委員</p>  | <p>家庭でできることを投げかけることも必要と感じている。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>池田市内の放デイに縁あって関わらせてもらっている、そこでは、まず Ikeda_s で聞き取り、半年後にどう変わったかを見ていることで、信頼関係が築ける。17か所全てが使えるようになることが重要。いろいろな形で現状を打開してほしい。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p><b>案件（3）各委員からの案件について（意見交換）</b></p> <p>池田保健所より、前回は案件になった、「これまで豊中市立しいの実学園で受け入れをお願いしていた、身体に遅れのある児童等の通園について」、今後の支援方針、対応策について確認したいという旨です。市内に医療型児童発達支援センターがないため、しいの実学園に通うケースがほとんどでしたが、豊中市では、31年度より新・児童発達支援センターの運営スタートが予定されており、それに伴い、池田市民の受け入れはできなくなるとの話がありました。現状を簡単に報告します。現在しいの実学園に通園されている方は、卒園まで通うことができます。現時点では、藍野療育園や吹田療育園、大手前整肢学園の3か所を利用されている方がいらっしゃいます。ここでの受け入れは今後も可能ですが、遠いため、通うのが難しい方もいらっしゃるかと予想されます。そのため、市立児童発達支援センターとして、やまばと学園での受け入れを前向きに検討しています。部屋など物理的なことから、専門職の配置など、準備段階ではありますが、他でのノウハウを取り入れながら、進めてまいりたい。定員の問題もあり、段階的にとなろうかと考えております。</p> |
| <p>委員</p>  | <p>やまばと学園での受け入れは前向きに検討している。ハード面、設備面が整っておらず、現段階では難しい面がありますが、職員体制等を整えながら、今後も受け入れを検討していきたいと考えております。居宅訪問型児童発達支援のサービスも、池田市として、立ち上げていくかどうかを考えていけないと思います。</p>  |
| <p>委員</p>  | <p>厳しさも分かっているが、この声をどこであげたらよいのか分からず、この場を借りてもう一度出させてもらいました。小学校に入るまでの子どもを支援しているなかで、親子の絆、親の関わりはすごく大事な部分であると思うので、療育に親子で通う意味は大きい。行けな</p>  |



|            |   |
|------------|---|
| <p>委員</p>  | <p>いからデイを使う流れになってきているのは、保健師として、本当にこれでいいのかと思う。やまばと学園を見学すると、すごくいいことをされている、親子で通って、そのなかで関わり、その後にデイという流れを池田の中でも作っていただけたらよいと思います。療育園が他市になると、1歳や2歳、障がいのある子を、車を運転してとなり、通えないとなってしまうことがある。ぜひご検討していただき、前向きに進めていっていただけたらと、よろしくお願いします。</p> <p>この問題は、私の子どもが小さいときからあった。訓練となると、市外になる。私も電車に乗って吹田療育園に行っていた。訓練は一生物のものです、側弯や二次障がいが出ないように、市内で作って欲しいと20年来訴えていた。今でも月2回大手前整肢に連れていっていますが、年を追うごとに身体も大きくなり、すごく大変になる。総合的に考えて、池田市民の子どもは池田で育ててほしいのでどうぞよろしくお願いします。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>やまばと学園にすべてをお願いするのは、もうマンパワーの点でも、いっぱいいっぱいだと思う。複数の選択肢がないといけないのでは。市として積極的に誘致をするなどといった機会はないのでしょうか。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p>やまばと学園の施設も老朽化し、手狭になり、将来的には建て替えも検討しています。その際、機能訓練室を作り、専門職、看護師等も配置して、ただ、医療型発達支援センターとなるとハードルが高い。民間の事業所の話があれば、積極的に推進したい考えはあります。</p>   |
| <p>委員長</p> | <p>なぜ池田市に来ないのかも分析してもらわないと、この議論が続くだけになってしまう。一昨日、箕面市萱野に重心の事業所がオープンした、私も関わらせてもらっている所ですが、近隣なので紹介していただく。発達支援マップを更新して、近くに通えるところが新しくできていないか、市でも把握して情報発信していただきたい。</p>   |
| <p>事務局</p> | <p>案件（4）その他</p> <p>次回、31年度決算が出る前くらいに開催したいと考えております。</p> <p>○閉会（委員長挨拶）</p>  |